巡回セールスマン問題

1776002 青木裕哉

2017/11/20

1 課題1全探索

2 課題2改善法

配布されていた全探索のコードは O(n!) ほどの計算量だった.改善法は完全にランダムのため計算量は一定でないが,局所解に収束しやすいため,非常に少ない計算量になった.今回のプログラムでは,解の精度向上のため,100000 回試行して改善されなかったという条件を計算の終了とした.そのため,計算量の理想値である $O(n^2)$ ではなく,最大で $O(100000+2\times n^2)$ 程度の計算量となった.以下のプログラムでも同様の条件を計算の終了条件としている.

3 課題3構築法

計算量は必ず $O(n \times (n-1))$ となるが,局所解に陥り安く,精度は損なわれる.具体的には以下の図の通りである.

citys	range	time
5	2.364416	$0.000016000000000 \; \sec$
10	3.069126	$0.057554000000000 \; \sec$
11	2.994373	$0.676607000000000 \; \sec$
12	3.019338	$7.819692000000000 \; \sec$
13	3.281921	$99.89479900000001~{\rm sec}$

表1 全探索による回答と計算時間

citys	true	improved
5	$0.000016000000000 \; \sec$	$0.018589000000000 \; \sec$
10	$0.05755400000000 \; \sec$	$0.020778000000000 \; \sec$
11	$0.67660700000000 \; \sec$	$0.027638000000000 \; \sec$
12	$7.81969200000000 \; \sec$	$0.03142700000000 \; \sec$
13	$99.89479900000001~{\rm sec}$	$0.03948900000000 \; \sec$

表 2 改善法と全探索における計算時間の比較

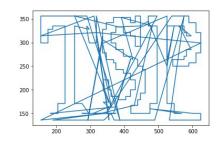


図 1 構築法による 225 都市の巡回セールスマン問題の解答

4 課題 4 アニーリング法